

7歳で知った動物を飼う責任

前川 オリバーさんは、イギリス南西部のウエストンスーパーメイヤーのお生まれと聞いているんですけど、小さいころのご家庭はどんなご家庭だったんですか。

オリバー 兄弟は弟が1人だけです。父が早く亡くなっておりまして、お母さんが1人で私たちを育てました。小さい時から家に動物がいなかった時ではなく、私は3歳から馬に乗りました。その時から私は自分の馬が欲しくて、毎日、母にせがみました。でも、「十分責任がもてなかったら、自分の馬を飼えない」と、いつも教えられていました。

だから、最初は小動物のネズミとかウサギとかを飼いました。家族でずっとイヌも飼っていましたが、一番欲しかったのが馬でした。

そして、7歳の時から馬を飼って、その時に初めて本当の「責任」ということが分かりました。学校から帰ってきておなかが空いていても、先に馬にエサをやらないといけない。それと小遣いは全部、馬のエサになって。

昔のイギリスのお父さん、お母さんは、そういう点でかなり厳しかったんです。動物は私たちと一緒に平等ですから、100%の「責任」を持たないと飼えないんですね。おもちゃではないから。

前川 そういう小さいころを過ごされて、大学では酪農を専攻されたそうですね。オリバー そうです。1966年に初めて日本に来たときはまだ学生でして、あちこちアジアの国を見たくて、観光のような遊びで、来ました。

そして、半年いてイギリスへ帰って、また日本へ行くために日本語を勉強しなければいけないと思って、ロンドン大学に1年間入りました。

前川 日本が非常に気に入ったということですが、どこが一番気に入りましたか。

オリバー 島国ですから、イギリスとは似ています。でも、イギリスはすごく保守的、伝統も深いから、あまり変わることがないでしょう。日本は、もちろん文化も深いし、歴史もありまうけれども、すごくエネルギーのある国だと思います。

イギリスは、今でも、20年たつて帰ってパプカどこかに入ったら、同じ人が座って同じ会話をしている、あまり変わらないです。でも、日本は2カ月いかなかったら、いろいろと変わりますからね。

動物と暮せる場所を求めARKを設立

前川 次に来られたのが1969年ですね。能勢町（大阪府）で農家を買って、ここを拠点とされたということですが、なぜ能勢だったんですか。

オリバー 最初は茨木市（大阪府）に住んでいました。そこも最初は農村風景が残っていました。でも、4年間でほとんどなくなってしまいました。

仕事が大阪でしたから、大阪から1時間ぐらいのどこか、まだ農村風景が残っているところを大分探しました。そしたら2カ所ありまして、1つは能勢で、もう1つは生駒市（奈良県）でした。その2カ所へ行つて、家とか土地を見て、能勢の家を買いました。

前川 茨木にお住みになつていらっしゃるのに、大阪工業大学の講師というお仕事にお就きになつたわけですか。

オリバー そうです。大阪工業大学では英語をずっと教えています。能勢に来て最初は、この近くの農家に住んでいました。この家は、あとで建てたんです。最初の家は土地が130坪で自分のイヌとか馬もいましたが、こういう仕事には場所が狭かったんです。それに、村の中でしたから、動物保護とかはできないというのがわかりましたので、3年間一生懸命、もうちょっと広い土地を探しました。もちろん、予算もあまりなかったから、

静かで、村から離れ、値段に合う広い土地を探しました。そしたら、この土地が見つかりました。8年前の1988年に、約1000坪のこの土地を買ってARKを設立しました。

前川 橋とか道は、オリバーさんのところ自力で造られたんですか。

オリバー 造りました。建物も電気も何もなかった。今は電気を引いていますが水道はなくて、井戸です。ガスはプロパンで、お湯はソーラー、これはほとんど家全体を温かくします。

動物の世話にはかなりの人が要る

前川 地震のあとで、たいへん多くイヌやネコが増えたそうですね。今現在は何種類・何匹ここにいらっしゃるんですか。

オリバー 現在は、イヌが150〜160匹、ネコが100匹近くですね。それと馬とヤギが6頭、あとはニワトリが2羽とガチョウが4羽と、カモとギンギツネが1匹です。

前川 ARKが飼い主から預かる場合は多少お金が入るにしても、捨て犬その他の保護は、何の収入もないわけですね。

オリバー ないです。入金、預かり賃と会費と、あとは寄付です。出すお金は、一番が、人件費です。2番目が不妊・去勢手術、治療、薬などの獣医代。3番目が柵代、



自然に囲まれた中にあるオリバー邸（ARK内）